

包装技術講習会

～ 包装材料がひらく新たな未来

～ プラスチックと紙素材にみる環境対応とSDGs ～

日時	2021年11月10日(水) 13:30~16:35
会場	「Zoomウェビナー」を利用したオンラインセミナー形式 ※お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内いたします。
参加費	無料

プログラム

【コーディネーター】

株式会社アステックコーポレーション 東日本事業所 副事業所長(包装管理士) 岡田 俊紀 氏
あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室 主任研究員 佐藤 幹彦 氏

13:35~15:05

『環境対応包装の現状 2021』

～ 待ったなし! 脱炭素トレンドにどう向き合えばいいのか～』

フタムラ化学株式会社 中部統括開発グループ リーダー(包装専士) 花市 岳 氏

我々包装業界にとって今は激動の時代になってしまいました。2019年までは海洋プラスチック問題が盛んに言われてきましたが、2020年にコロナ禍となり使い捨てプラスチックが少し見直されてきたかと思えば、2021年には急激に脱炭素社会へとトレンドがシフトしていきました。それに伴い業界は慣れないSDGsでこれらの課題をクリアしようと必死になっています。ただこれら一つ一つは以前から注目されていたはずなのに、なぜ極端に言われるようになったのでしょうか。今回は、環境対応包装に関連する制度や実例を示しながらこれらの背景を整理し、この混沌とした状況に今後どう立ち向かっていけばいいのかを独自に解説していきたいと思います。

15:05~15:25 質疑・応答 / 15:25~15:35 休憩

15:35~16:20

『紙素材を建設資材へ活用してSDGsの実現と生産性向上』

～ 「KAMIWAZA®」の開発と実用化』

王子インターパック株式会社 営業本部 チーフ(包装管理士) 物部 公二 氏
清水建設株式会社 土木技術本部イノベーション推進部 主査 宇野 昌利 氏

建設業では、現場で多くの建設資材が利用され、使用後は産業廃棄物として処分されることが多い。これまで紙素材は一般的に「水」や「火」に弱いイメージがあり、建設業には、紙素材が利用されにくい環境であった。しかし近年、紙素材は、高強度化、高機能化が進んでいる。そこで、紙素材を建設業に適用することで、生産性向上、環境保全、SDGsに寄与できると考え、紙素材を建設資材に活用する「KAMIWAZA」として開発を進めた。特に、建設資材に利用するためには、紙素材の耐候性、遮音性などの基礎的なデータを検証し、トンネル風門、骨材貯蔵施設、防音壁などで適用性を確認し、当初の目的である生産性向上、環境保全、SDGsの寄与についても実現できた。

16:20~16:35 質疑・応答

【注意事項とお願い】

「Zoomウェビナー」を利用したオンライン形式で開催いたします。下記の内容について、事前にご確認ください。

- ①ご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況等により視聴し難い場合があります。通信費・接続利用料金等は、参加者の自己負担となります。
- ③参加申込をいただいた方には、Eメールで参加手順等をご案内いたしますので、事前にご確認ください。
- ④本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得等によるデータ保存行為を固く禁止します。また、講演資料は参加者のみの利用に限定しますので、無断で複写・配付・公開する等の行為を行わないでください。